

コンピューターソフト

1. 評価対象企業（13 社）

新日鉄住金ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、
オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、
ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	7	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		24	100

（注）評価項目の内容および配点は 110 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 18 名（16 社）である。（111 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（109 頁参照））

- ① 本年度は、説明会等において配点変更 3 項目、自主的情報開示において削除 1 項目、配点変更 1 項目を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、68.0 点（昨年度 65.4 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 11.6 点（昨年度 14.3 点）となった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 65%（昨年度 59%）、説明会等が 72%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 79%（昨年度同率）、コーポレート・ガバナンス関連が 59%（昨年度同率）、自主的情報開示が 66%（昨年度 65%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および自主的情報開示が上昇した。
- ③ 評価項目について見ると、全 24 項目のうち 5 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の 3 項目は、多くの企業において満点を含む高い得点率（評価点／配点（以下省略））の評価となった。
 - (a) 「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか」（平均得点率 92%、得点率：100%12 社）
 - (b) 「決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか」（平均得点率 89%、得点率：100%11 社）
 - (c) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 88%、得点率：90%台 6 社・80%台 7 社）

- ④ 一方、次の 3 項目は、昨年度に続き全社の半数以上が低水準となった。得点率の低い企業の今後の改善が強く望まれる。

- (a) 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか」(平均得点率 35%、得点率：20%未満 4 社・20%台 3 社・30%台 3 社)
- (b) 「IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 46%、得点率：20%台 1 社・30%台 3 社・40%台 4 社)
- (c) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか」(平均得点率 52%、得点率：20%台 3 社・30%台 3 社・50%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業〔9 回目〕、総合評価点 83.8 点〔昨年度比+1.4 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、説明会等（得点率〈以下省略〉84%）、コーポレート・ガバナンス関連（85%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（96%）、経営陣の IR 姿勢等（80%）、自主的情報開示（75%）が第 2 位となった。フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野において昨年度の得点率を上回り、評価項目においても昨年度と比較可能な 20 項目中 11 項目で昨年度の得点率を上回ったことから、総合評価点および順位の上昇につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップがミーティングに参加して積極的にディスカッションしていることなど、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができることや、有益な「事業説明会」を開催していることなど同部門の機能も評価された。
- ③ 説明会等においては、説明資料のセグメント分類が的確であり、売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、変動要因についても十分に説明されていること、費用の主要項目および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、顧客別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、変動要因について十分に説明されていることなど、説明資料等における開示が高い評価を受けた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、説明会の動画配信、決算説明会の質疑応答掲載など、その取組姿勢を始め、この分野全体について高く評価され、同得点第 1 位となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードについて十分説明していることが評価された。また、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点も評価された。さらに、資本政策、株主還元策について説明していることも評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分であることや、統合報告書等の内容について高い評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 SCSK（総合評価点 80.8 点〔昨年度比-2.5 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（81%）、自主的情報開示（78%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（96%）、説明会等が第 2 位（81%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 4 位（72%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が現状認識と自社の向かうべき道を明確に示していることから、ミーティングにおいて議論が深まるなど、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、有益な「事業説明会」が開催されたことなど、同部門の機能も評価された。さらに、自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られるなど、IR の基本スタンスも評価された。
- ③ 説明会等においては、利益増減要因や業績推移に関する説明が評価された。また、説明資料に顧客業種別売上高構成等や変動要因を詳細に記載していることなど、充実した説明資料も高い評価を受けた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢等、この分野全体について高く評価され、同得点第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードについて十分説明していることが評価された。また、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点も評価された。さらに、資本政策、株主還元策について説明していることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分であることや、統合報告書等の内容について高い評価となった。

第 3 位 伊藤忠テクノソリューションズ（総合評価点 76.2 点〔昨年度比+5.6 点〕、昨年度第 7 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（96%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位（74%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（70%）、**自主的情報開示**が第 4 位（71%）、**説明会等**が第 5 位（77%）となった。昨年度と比較可能な評価項目を見ると、20 項目中 16 項目において改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第 2 位、順位の上昇幅第 1 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが投資家・アナリストと向き合う機会が増えており、経営戦略等に関し有益な情報が提供されるように変化したことが評価された。また、主要事業および主要取引先に関し その収益性・将来性や、自社の都合の悪い情報も積極的に開示する姿勢が見られるなど、IR の基本スタンスについても評価された。この分野において、同社は昨年度に比べ、得点率で 11 ポイント（評価点で 3.5 点）上昇した。
- ③ **説明会等**においては、利益増減要因を明確に説明していることや、説明資料に顧客業種別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、変動要因について十分に説明されていることが評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢等、この分野全体について高く評価され、同得点第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードについて十分説明していることが評価された。また、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点も評価された。さらに、資本政策、株主還元策について説明していることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分であることが評価された。

以 上

平成29年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (コンピュータソフト)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目7 (配点 32点)		評価項目7 (配点 32点)		評価項目4 (配点 12点)		評価項目4 (配点 16点)		評価項目2 (配点 8点)		
1	(4307) 野村総合研究所	83.8	25.7	2	27.0	1	11.5	1	13.6	1	6.0	2	2
2	(9719) SCSK	80.8	25.8	1	25.8	2	11.5	1	11.5	4	6.2	1	1
3	(4739) 伊藤忠テクノソリューションズ	76.2	22.5	4	24.7	5	11.5	1	11.8	2	5.7	4	7
4	(2327) 新日鉄住金ソリューションズ	75.0	25.5	3	25.3	4	11.5	1	7.2	10	5.5	6	3
5	(3626) TIS	73.6	20.6	7	24.6	6	11.4	5	11.6	3	5.4	7	4
6	(8056) 日本ユニシス	72.6	19.6	8	25.7	3	10.9	7	10.8	6	5.6	5	5
7	(9613) エヌ・ティ・ティ・データ	71.7	20.7	6	23.1	10	11.1	6	10.9	5	5.9	3	6
8	(4704) トレント・マイクロ	68.1	21.3	5	23.9	7	10.2	9	8.0	8	4.7	10	8
9	(7518) ネットフロンシス・テムズ	67.8	19.2	11	23.6	9	10.5	8	9.7	7	4.8	9	9
10	(4716) 日本オラクル	59.2	15.1	13	23.8	8	9.5	10	6.3	12	4.5	12	11
11	(4768) 大塚商会	58.1	19.4	10	19.5	11	6.5	11	7.8	9	4.9	8	10
12	(4733) オービックビジネスコンサルタント	54.7	19.6	8	18.9	12	5.1	12	6.4	11	4.7	10	12
13	(4684) オービック	42.4	15.2	12	14.4	13	2.6	13	6.0	13	4.2	13	13
	評価対象企業評価平均点	68.02	20.79		23.11		9.52		9.36		5.24		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は11.6点 (昨年度14.3点) であった。

2 9 年度評価項目および配点（コンピューターソフト）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点
		(32点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
① 決算説明会に経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。		4
② 経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。		6
(2) IR部門の機能		
① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。		6
② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。		4
③ 有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。〔過去1年間を目安に評価〕		4
(3) IRの基本スタンス		
① 主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られますか。		4
② 自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られますか。		4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点
		(32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示 〔 連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える) 〕		
・ 利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。		4
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示 〔 連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える) 〕		
① 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。〔閲覧できる：3点 閲覧できない：0点〕		3
② セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。		6
③ セグメント変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。〔セグメント変更(合併等を含む)がない場合は満点評価とする〕		4
④ 費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。		7
⑤ 顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、また変動要因について十分に説明されていますか。		4
⑥ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。〔全て開催：4点 その他：0点〕		4
3. フェア・ディスクロージャー		配点
		(12点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		2
② 決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。〔終了後同日中にできる：4点 後日できる：2点 できない：0点〕		4
③ 決算説明会の質疑応答の状況が、電話、ウェブキャストあるいはホーム・ページで十分に分かるようになっていきますか。		4
(2) 外国人投資家向け情報提供		
・ 外国人投資家向けのIR活動(海外IR)に努めていますか。〔海外IRあり：2点 なし：0点〕		2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点
		(16点)
(1) コーポレートガバナンス・コード		
・ コーポレートガバナンス・コードについて、十分な説明がなされていますか。		2
(2) 目標とする経営指標等		
① 重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。		5
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。		5
(3) 資本政策、株主還元策の開示		
・ 資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明されていますか。		4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点
		(8点)
① 事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等)の開示が十分になされていますか。		6
② CSR報告書・環境報告書・統合報告書のいずれかの内容は充実していますか。		2

コンピューターソフト専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	田中 誓	野村証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（18名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
伊藤 真仁	アセットマネジメント One	鈴木 邦夫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	田中 誓	野村証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
上野 真	大和証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	根来 裕昭	三井住友信託銀行
菊池 悟	SMBC 日興証券	堀 雄介	みずほ証券
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	前田 俊明	QUICK
坂井 ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行	渡辺 洋之	三井住友アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。